

英国 V&A 博物館とスコットランド国立博物館所蔵浮世絵のデジタルアーカイブ

A Digital Archiving for Japanese woodcut prints at V&A and NMS

赤間 亮*

Resume:

現在進行中の海外博物館デジタルアーカイブプロジェクトの一つにヴィクトリア&アルバート博物館所蔵浮世絵約 38,000 枚とスコットランド国立博物館所蔵約 4,700 枚がある。このコレクションは元も一つのものであるが、英国王室がスコットランドに分与したものである。デジタル化によって、120 年ぶりに一つになったこの資料は大規模であるだけに様々なことを語ってくれる。いくつかの問題点を報告したい。

1. はじめに

現在、アート・リサーチセンターでは、ヨーロッパを中心とする海外の博物館とのデジタルアーカイブ共同プロジェクトを推進している。大英博物館やボストン美術館などの世界を代表する博物館の他、個人コレクションを含む。この内、最初に着手したのが、英国ヴィクトリア&アルバート博物館（以下、V&A）所蔵の 38,000 枚に及ぶ浮世絵を対象とするものであった。2003 年の春に共同研究を開始するにあたり、もともとは一括されていた同様のコレクションがエジンバラにあるスコットランド国立博物館にもあることを知り、2005 年から同様の手法で約 4,700 枚すべての浮世絵作品のデジタル撮影を実施した。この二つの大規模な浮世絵コレクションのデジタル撮影と、基本的な情報整理を 2008 年 3 月までに完了し、現在、その修正作業とより専門性の高い情報を付与している段階である。このデジタルアーカイブプロジェクトは、分割されたコレクションを 120 年ぶりに再会させ、一つにまとめるというかつてない事業であり、さらにいえば、このデジタル複製物を日本に持ち帰ることによって、まさに 120 年ぶりに日本へ里帰りさせることができたという事実を報告することになる。この資料は、デジタルアーカイブという手法によって、いわばタイムカプセルのように 120 年前の状況にまで遡っていくことができる。

2 館を合わせて約 42,700 枚という数は、膨大であり、実際のところ、学術的な厳密さが要求さ

れるレベルでの理想的な書誌情報が完備するまでには、今しばらく時間がかかると思われるが、中間報告としてここに概要を紹介したい。なお、本報告の点数・枚数等は、カタロギング作業が進行中でもあり、流動性がなお存在することも予めお断りしておく。

2. V&A と NMS の浮世絵コレクションの概要

V&A は、英国における最大の工芸博物館である。日本人にとっては、あまりなじみがないため、大英博物館と肩を並べる規模の博物館であると言うと驚かれることが多い。歴史は、それほど古くはなく、1852 年設立、57 年に現在のサウスケンジントンに移ってサウスケンジントン博物館となり、1899 年に現在の名称となった。ヴィクトリア朝時代における世界の工芸品とデザインが収集の中心であるが、これは、1851 年に開催されたロンドン万国博覧会で得られた収益と工芸品が元になっているからで、そのデザインが英国のデザイナーやアーティストの参考となり、創作活動に寄与することを目指したものである。V&A の東アジア部門にある浮世絵コレクションの収集についても同様の目的があり、1908 年に V&A が出した『日本の版画』（エドワード・ストレンジ著）では、V&A のコレクションを指して、「デザイナーや職人、日本の応用美術を学ぶ学生にとって非常に実用性があり」「人々に活用されるコレクションとして価値が高い」と評している。この点では、骨董 / 美術品としての美術史的な価値

*あかま りょう（立命館大学アート・リサーチセンター）
原稿受理日：2008/11/5

を求めて収集されたもの他の大規模なコレクションとの大きな相違を示している。

V&A は、浮世絵の収蔵数では世界で 4 番目の規模を誇る。その数は、大英博物館の 2 倍をはるかに超えており、この事実は日本では、ほとんど知られていなかった。昨年、5 月から今年の 5 月までの 1 年間に亙り、「初公開 浮世絵名品展」という展覧会が太田記念美術館をかわきり石川県、山口県、愛知県、兵庫県、福島県と巡回していたので、観覧した方もおられると思うが、その規模と価値については、この展覧会を見てもそれほど認識できなかったかもしれない。収蔵数は、公式には約 25,000 点とされているが、実枚数では 38,000 枚を越えており、V&A の東アジアコレクション全体の 2 分の 1 にも及ぼうとする数である。実際、学芸員たちが日常過ごしている研究室に隣接してこの大規模なコレクションを納めるプリント保管室があり、彼らにとって中核となるコレクションであることが実感される。

V&A では、1852 年の博物館設立後、1886 年にイギリス人のディーラー、S.M. フランクから 12,000 点に及ぶ作品が購入されたという記録がある。この購入品は、早速、受け入れ作業が行われたらしく、登録番号に付与される受入年では、「1886」とするものが最も多く、手許のデータでは、約 19,000 枚に及ぶ。1886 年以前では、1869 年が 49 枚、1885 年が 97 枚であり、それ以前の年代を記さない登録番号のものがやはり 445 点あるが、この 1886 年に購入したひと山が V&A のコレクションの核となっていることは間違いない。

スコットランド国立博物館(以下、NMS)は、エジンバラにあり、スコットランドの歴史や自然史、世界の文物を集めた総合博物館である。日本部門は、それほど大きくないが、やはり浮世絵の占める割合は高く、約 4,700 枚を所蔵している。こちらは、ほとんどの浮世絵作品が 1887 年に登録されており、同じ国内において、これだけのコレクションがほぼ同時期に二つの国立博物館に収まったという事実は、いかにヨーロッパがジャポニスムの熱に浮かされていた時代であるにせよ驚くべきことであろう。この登録年代が極めて接近しているのには理由があり、実は、NMS

の浮世絵は、V&A が購入したひと山の内、一部分がスコットランドに分与されたものなのである。ごく一部、別系統のものが混入している可能性はあるが、V&A の 1886 年登録分と NMS の 1887 年登録分は、もとは S.M. フランクから購入した一つのまとまったコレクションであったのだ。

3. 1886/7 年登録分資料群の原形態と特徴

V&A では、1886 年の登録年を持つ資料について、おそらく担当した学芸員にエドワード・ストレンジがいたことで、どの段階かで、原形状を解体したものと予想される。というのは、同じ出自を持つ NMS の浮世絵が基本的にアルバム形態であるのに、V&A の方は、バラで整理箱に収められているものが多いからである。「-1886」の番号を持つ約 19,000 枚の内、現在は、アルバムが 87 冊で、ここには約 6700 枚が貼り込まれており、全体の 3 分の 1 を占めるが、約 12,000 点はバラで保存されている。バラの資料は、これを登録番号順に整列すると、ほぼ、絵師ごとにまとめられた上で、同じシリーズのものを集め、さらにシリーズ物については、同板作品を集めていったことが分かる。同板作品については、2 枚目には同じ番号を付与した上で、末尾に A をつけ、以下、B、C、D、・・・としている。この A 以下の重複分は、現在は、保存箱の番号「EJ180」以下にまとめられている。バラの作品の末尾の登録番号は、「E.14691-1886」であり、アルバムの現在の番号の最初である「01.A.01」の登録番号は、「E.14692-1886」と連続しているので、ある段階で、短期間に「青インク」を使った手書きの連続番号が付与されていったと考えられる。しかも、この番号の筆跡は非常に特徴があり、以降の時代のものも同様な番号が見られ、それは、1920 年代まで続くから、1900 年代に入ってから整理であったように思われる。おそらくは、1920 年代にこの「E. ~」の番号システムに移行したのではなかったか。この辺の事情については、すでに V&A 側では記録がなく、このような推測をするしかない。

ところが、このバラのグループの中に、画中に番号がエンピツ(赤・黒)で書き込まれているものが散見される。この番号は、アルバム形態の作品に同様に書き込まれているものと同じ体裁の

ものである。これらは、もとはアルバムに貼り込まれていたもので、1900年代における解体作業においてばらばらにされてものと予想できる。一方、現在NMSに所蔵されているアルバムは、剥がすのに比較的手間のかかる貼り込まれ方をしているものも一部あるが、大部分は、簡単にアルバムの台紙から剥がして、シート化できるものが多い。これと同様の貼り込み方をされたものが、このV&Aでは、アルバムから引き剥がされ、絵師別に並べられていったものであろう。そして最後に容易には剥がせないアルバムをそのままの形状で置き、アルバムごとに1番号を付与して「E.~」式の登録作業が完了したものと見える。

原形態がそのまま残されていると思われるNMSの所蔵品は、摺りの状態としては様々であるが、退色が少なく、アルバムに綴じ込まれて以降、あまり外光に晒されてこなかったことが予想される。これまでアルバムという用語を使っているが、これは通常「画帖」と呼ぶもので、日本で装幀されたものであり、貼り込みも含めた画帖編集はSM.フランクに渡る前に日本で行われたものであろう。

次に、全体のイメージをつかんでもらうために、一つの事例を挙げて説明したい。

NMSのアルバムには、それ自体にタイトルがついていて、一つのまとまった内容となっているものもあるが、まったく脈絡なしに、続き物や組物も揃っていない状態でアトランダムに貼り込まれているものがいくつかある。たとえば、英泉による「契情道中双禄」というタイトルのシリーズがある。NMSでは、これを6枚所蔵している。2枚はA-1887-745-49のアルバム(ただし、現在は解体されて、このアルバムの元の順序のまま、ボックスに入っている)、4枚はA-1887-745-64というアルバムに貼り込まれている。それぞれのアルバムの中での順番は、A-1887-745-49では、68枚目と98枚目であり、A-1887-745-64では、14,39,65,97枚目に貼り込まれている。ところが、この6枚の内、3枚は、「見つけ 倉田屋内 佐多」という作品であり、A-1887-745-49に1枚、A-1887-745-64には39枚目と97枚目に2枚入っている。つまり、1冊のアルバムに同じ作品が位置を離して、2枚貼り込まれているのである。

V&Aでは、44枚の「契情道中双禄」を持っているが、1886年の番号を持つ作品は、30枚である。この内、現在もアルバムに貼り込まれているものは12冊のアルバムに22枚である。22枚の配置は、7枚連続しているアルバムが1冊、2枚連続しているものが3冊、(その内、連続せずにもう一枚貼り込まれているものが1冊)である。そして、現在バラの状態になったものは、8枚であるが、これは、E12931-1886からE12938-1886まで、連番で登録されている¹。そして、V&Aの1886年30枚では、2枚重複しているものが8作品あり、異なり数としては、22枚ということになる。

これをNMSの1887年分6枚を合わせると、全部で36枚、重複分を除くと、26作品となる。この内、NMSでも3枚の重複があった「見つけ 倉田屋内 佐多」は、V&Aにも2枚あるため、全部で5枚の重複があったことになる。

以上は、1事例を示したにすぎないが、これでこのコレクションの概要が類推できるものと思う。一つの特徴は、重複が多いということである。たとえば、「東海道五十三次之内 戸塚図」は全部で8点もの重複がある。しかも、上記の現状の推測にしたがえば、いくつかのアルバムに分散されて貼り込まれていた可能性が高く、悪く言えば、日本のディーラーは、大量にあった重複資料の山から、重複が分からないように分散して貼り込んで、何冊ものアルバムを作り、それをS.M.フランクに売り渡したということになるかもしれない。V&A側としても、画帖をくずして、「E.~」番号を付与するまでは、これだけの大量の重複があり、しかもアルバム内の編集も雑然としていることには気づかなかっただろう。

ところが、実はこのいわば「癖」のある資料群は、デジタルアーカイブによって、特長ある資料群として再生し、価値が蘇ってきたのである。次にその価値について述べていきたい。

4. V&A, NMSにおけるデジタルアーカイブの効用

V&Aでは、現物を1枚単位にバラし、シート状にすることで、作品の同定作業を行い、重複分の抜き出しを行った。しかし、アルバムをくずせなかったものについては、現在でも作品1点単位での管理もできておらず、もちろん展示もされたこ

とがない。アルバム収録分とバラのシートについては、同じ収蔵庫にありながら、別物のように扱



われている。また、もちろん 1887 年にエジンバラへ移動させられた 47,00 枚については、物理的にもこのグループの中で整理することはできない。

1939 年から V&A の学芸員となるバジル・ロビンソンは、国

芳を専門にして任期中、国芳の画稿類を V&A にし、自身も大きな個人コレクションを作り上げたが、V&A のみならず、NSM の作品についても、調査を行い、手書きの図書館カードを使って、カタログ化を行っている。V&A 作品に関しては、現在プリント室にある木製のカードボックスにやはりロビンソンのカードがあるが、これは V&A のすべて作品について完成しているわけではないという²。NSM の作品については、作品数が 4700 枚ということもあり、全作品のカード化を行うことに成功している。そして、そのカードは検索用のツールとして現在も利用されている。しかし、このカードのコピーは V&A には存在してない。おそらくは、バジル・ロビンソン自身は、V&A と NSM の作品を統合した大規模な手書きカードのデータベースを持っていたと思われるので、今回の我々のプロジェクトが初めての統合作業ではないが、今回のデジタルアーカイブにより、全カタログ化が可能となった。これが、なにより本プロジェクトにおけるデジタルアーカイブの効用である。この点については、言うまでもないかもしれない。別の効用について述べよう。

まず、先に触れた重複問題である。デジタルアーカイブによって、この資料群の価値は、むしろこの重複にあることが分かってくる。同じ「契情道中双禄」の「見つけ 倉田屋内 佐多」を再度取り上げてみよう。全部で 5 枚あるこの作品は、並べてみるとすべて摺次が異なるらしく、色目がすべて異なる(注 本稿の印刷がカラーではない

ので、色目のバリエーションを表現しきれない。) とくに、着物のグラデーションの切り換え位置がすべての作品で異なる。色目が違うのは、しかし、浮世絵では通常に起きることで、摺る日が違えばすべて色目が異なるはずである。そのバリエーションを見るに、これほど大量に重複を持っている所蔵機関はないと言える。しかも、デジタルアーカイブにより高



精細画像をオーバーレイして比較することができるため、実はこのシリーズも何度も板木が作り直されている可能性が指摘できるのである。たとえば、5 枚の作品のタイトル部分のみを比較した下記の図を見ていただきたい³。



A B C D E

こうして並べると、あきらかに板木自体が異なっているというべきで、A・B、(C・D)・Eのようにグループ化できることに気づくだろう。つまり、V&A と NSM の 5 枚の作品は、すべて別板と言ってよく、決して重複ではなかったのである。このように、むしろ、同一作品が数多くあることで、摺りの状態や、改版の実態をこの一つのコレクションの中で比較していくことができるのである。そして、實際上、現物を使って 5 枚のタイトル部分を図のように並べることはできないわけであるから、デジタルアーカイブの本領発揮といって間違いがない。

次に、泣き別れになった続き物の作品について触れたい。もともと、一つのグループであったこの2館の作品は、アルバムに貼り込まれる時に、非常にラフに編集され、続き物であっても、組み合わせることができず、同じアルバム内で離ればなれになっていたり、別のアルバムに貼り込まれたりしていたがために、結局 V&A と NMS に分離してしまったものが多々見受けられる。



たとえば、NMS にある A-1887-745-052 という番号のついたアルバムには、全部で 74 枚が貼り込まれている。その内、51 枚目と 52 枚目は 2 枚続きとなっているが、描かれている二人の男女は、画面左を見つめていて、3 枚目の存在を予想させる構図となっている。これを、たとえば、52 枚目の図中にあるタイトル「義時妾白梅」で本プロジェクトが構築中の浮世絵総合データベースを検索すると、演劇博物館所蔵品 101-1112 を見つけることができる。演劇博物館所蔵品は、3 枚続きであり、3 枚目の作品の画題が「稲葉子憎次郎吉」であることが判明。「稲葉子憎」で改めて検索すると、A-1887-745-052-001 を見つけることができる。つまり、同じアルバムの最初の作品としてアルバムに貼り込まれており、実は、51 枚目、52 枚目と続き物であるのに、組み合わせることができず離ればなれになってしまったことが判明する。白梅と義時が恐れおののいているのは、障子に映った稲葉小僧の「鼠」の影であったのである。

この作品の場合、右の 2 枚と、左図はまったく背景を異にしているため、この 3 枚で 1 組の絵になることに気づけなかったのだろう。

また、V&A と NMS とで離ればなれになった作品の事例を挙げてみる。初代国貞の作品に「三人娘」という 3 枚続きがある。V&A には、アルバムの中にある E14772-45-1886, E14774-084-1886 が右で 2 枚あり、バラのシートに E9059-1886 が左 1 枚、

中央は存在しない。一方、NMS には、アルバム A-1887-745-064 の 24 枚目に右、25 枚目に中央があり、また、アルバム A-1887-745-096 にも 17 セット目に左と中央がある。したがって、NMS では、2 セットを組み合わせると 3 枚続きができあがるが、V&A は、NMS の中央 1 枚を借りなくては、3 枚続きが完成しない。2 館を合わせると、2 セットの 3 枚続きを作ることができる。もちろん、こうした事例は、枚挙に暇がない。

5. 分野別流通量の割合を示す標本として

最後に、この膨大なコレクションの最も注目すべき価値について触れておく。通常、大きなコレクションは、ある蒐集意図のもとに形成されるものあり、ジャンルや絵師、描かれた内容によって偏りが生じる。たとえば、「たばこと塩の博物館」は、画中に煙管やたばこ、たばこ盆が描かれているものを集めて、大規模のコレクションを形成した。早稲田大学演劇博物館は、95% は役者絵である。現在、世界の市場で流通している浮世絵は、一旦販売図録等に掲載される段階で、いわゆる名品に偏りすぎてしまうきらいがある。その意味で、本コレクションは、幕末から明治初期における浮世絵流通状況を客観的に残した唯一の巨大な標本であると考えられるのである。実際、写楽は 1 枚もないし、初期版画も少ない。名品・稀品ばかりを求める目からは、V&A や NMS コレクションは、対象外になってきたかもしれない。しかしながら、日本の美術・工芸品が大量に西洋に流れていった時代の「在庫品」の実状は、本コレクションが典型的に示しているものではなかっただろうか。それ以後、歌麿や写楽、北斎など特定の絵師に人気が集まるにつれ、それらが覆刻され、日本中の蔵の中から探し出されて高額の作品として市場に出回っていったのだと考えられる。

こうした客観資料を前にして、研究者側がどのような視点を持つべきなのか、改めて考えさせられる。本稿では、ジャンルごとの割合が示してみたい。表の「1886+1887」の列は、本コレクションの V&A と NMS の枚数を合計したものである。まだ、ジャンル分けされていない作品もあり、また、これらの分類に収まらないものがある。二つ以上のジャンルにまたがるものも先にお

断りしておく。浮世絵全体において役者絵が圧倒的な数量を誇ることは、この業界に関するものであれば、経験値で知っているが、それがどれ程の割合なのかは、だれも明言できなかった。美人画や風景画、武者絵間の比率は、極めて妥当な数字と感じられる。ただし、本コレクションにおいて、源氏絵が極端に多いこと、春画がまったく存在しないことが特殊事情といえるかもしれない。源氏絵の研究は、極めて遅れている。幕末における源氏絵の流通は、現代日本人にとって興味が薄いですが、意外と重要なジャンルとして認識すべきかもしれない。むしろ特殊事情ではなく、実際の流通量であった可能性もある。

	V&A 全体	V&A1886	NMS1887	1886+1887
役者絵	12050	9220	1184	10404
美人画	7192	6205	769	6974
風景画	6080	4430	826	5256
源氏絵	4260	3899	1102	5001
武者絵	3260	2740	731	3471
花鳥画	280	6	15	21
子供絵	180	179	25	204
諷刺・戯画	473	349	100	449
春画	204	0	0	0
合計	33979	27028	4752	31780

¹ ただし、現在は、保存箱 EJ92 に 3 枚、EJ158 に 5 枚と分かれている。

² 学芸員のグレゴリー・アービン氏の談による。

³ それぞれの作品番号は次の通り。

A:A-1887-745-064-097 ,B:E12935-1886 ,C:A-1887-745-064-039 ,D:A-1887-745-049-098 ,E:E14757-69-1886。